

親鴨会メッセージ 「師走、そして新たな年へ」

親鴨会会長 内池 正名

アイビーエム在職中の12月と言えば、事業年度の締め月のであり大晦日までビジネスを追いかけていました。お客様のシステムも年末最後まで稼働していたことから、毎年事務センターを出て帰宅するのは元旦の早朝でした。部署によって12月の仕事の仕方は違いが有ったと思いますが、いずれにしても、世の中の季節の移ろいに心を馳せるゆとりもなく仕事中心の月でした。

仕事を卒業してからは、年賀状をせっせと書くという「作業」は変わらないとしても、ゆっくりと一年を思い返し、話す機会を作れなかった友人を想いながら年賀状を書くというゆとりはまったく異なった時間の過ごし方です。そして、クリスマスが過ぎれば、世の中は正月への準備一色になります。そうした風情を体感しながら師走を過ごしています。

例年、大晦日には自分でそばを打ち、家族で年越し蕎麦を楽しみます。長野に住む学生時代の友人が木曾郡木祖村産の蕎麦粉を送ってきてくれました。添えられていたメッセージは「この蕎麦粉は日本一のものです。もし美味しくなかったら君のそば打ちの腕のせい」とあります。いつまで経っても友達は優しくも厳しいですね。

平成から令和へ時代が進んだ今年の師走ですが、昭和、平成、令和の三つの時代を生きた自分の振り返るとともに、令和二年を迎える準備は整ってきたようです。